

## 実践編(2) 進化・深化する司法書士の取り組み

### 3 「子ども法律教室」の実践例 —紙芝居で学ぶ法教育教材「相談のちから」—

渡邊友理（宮城県司法書士会）

#### (1) 紙芝居で学ぶ法教育教材「相談のちから」とは

##### 1. 「相談のちから」のねらい

「相談のちから」は、日本司法書士会連合会により企画・制作された法教育教材\*<sup>1</sup>です。対象学年は小学校 5 年生以上で、相談のロールプレイやグループ活動を通して、こどもたちに次の三つのスキルを獲得してもらうことを目指しています。

- ① 「きづく」：問題状況を積極的に聞きとり、争点について「きづく」ことができる。
- ② 「ひきだす」：相談のなかで、専門家から有用な意見を「ひきだす」ことができる。
- ③ 「まとめる」：相談を踏まえて、自らの意見を「まとめる」ことができる。

##### 2. 「相談のちから」のストーリーと授業の流れ

～ストーリー～

海底王国で豊富に採れる宝石のパールを狙って海賊たちが攻めてきたにもかかわらず、王様は良い対応策を考えられないまま心労で倒れてしまいます。この国では、国の重要事項は国民の代表者が集まる議会で決定することになっていますが、王様不在の議会では海賊と戦うべきか否かで意見が対立してしまいました。3 日後には王国を救う方法について話し合った結果を王様に報告しなければならぬのに、このままでは決まりそうにない状態です。そこで代表者たちは、王国が誇る専門家へ相談することにしました。

##### ① 紙芝居パート

はじめに、紙芝居の映像を上映し、こどもたちにこのストーリーの背景事情を把握してもらいます。ここで、自分たちが海底王国の国民の代表者となり、専門家に相談し解決策を発表するという、ワークの趣旨を理解してもらいます。

##### ② 専門家紹介パート

専門家は長老、戦士、法専門家、コンサルタント、ミュージシャン、お役人、占い師、魔法使いの全部で 8 名です。各専門家の特徴や問題解決における方向性について紹介します。なお、専門家は 8 名全員を置かず、そのうちの数名を配置する方法でも行うことが可能ですが、最低でも 4 名は配置することをおすすめします。

##### ③ グループワークパート

「相談先の専門家決定→グループでの話し合い→専門家への相談」を2回繰り返します。同じ専門家への申込みが他のグループと重複した場合は、抽選を行います。専門家ごとに異なる相談料（必要コイン数）が設定されており、各グループで与えられた6コインをうまく使って専門家を選ぶことになります。相談時間は5分間です。

④ 最終プレゼンパート

専門家への相談で得られた情報を参考にしながら、グループごとに考えをまとめ、発表してもらいます。

⑤ 評価パート

相談と発表の評価を集計し、最も得点が高いグループを発表します。その後、全体を通した講評を司会者が行います。

### 3. 教材の内容

この教材は以下の内容で構成されています。

① CD-R（紙芝居や②以降の資料等のデータが保存されたもの）

② 参加者個人用の資料

- ・相談の書（相談の目的やルール、発表のヒント等が記載されたもの）
- ・思案の書（相談をするにあたり考えた相談内容や、その結果をまとめる用紙）

③ 参加者グループ用の資料

- ・予約申込書（専門家を予約する際に提出するカード）
- ・コイン（専門家に相談料として支払うコイン）

④ 専門家用の資料

- ・専門家マニュアル（各専門家の役割やスタンスについて記載されたもの）
- ・評価の書（相談を受けた専門家が、その相談の評価を記載する用紙）
- ・専門家問答例（想定される相談内容と、その回答例や解説が記載されたもの）

⑤ 指導者用の資料

- ・指導者用マニュアル（教室の運営方法について解説されたもの）
- ・学習指導案（指導にあたっての注意点やタイムスケジュール案等について記載されたもので、長時間用と短時間用の2種類があります）
- ・相談のちからシナリオ（紙芝居の絵と筋書き、台詞が書いてあるもの）

専門家の衣装や小道具、抽選に使用するくじ引きなどについては、別途準備が必要です。

#### (2) 宮城県司法書士会における実践例

宮城県司法書士会では、2019年3月、「相談のちから」を使用した「子ども法律教室」を開催しました。当日は仙台市内の小学校に通う5年生23名が参加しました。

## 1. 準備

運営スタッフは、司会1名、専門家役8名、チューター5名、司会サポート・得点集計1名、写真・動画撮影2名の合計17名で、一人一人が全体の流れや自分の役割をしっかりと把握することができるよう、事前の打ち合わせを何度も行い臨みました。

当日の会場内のレイアウトは、前方にこどもたちが座る5つのグループ席を配置し、後方に保護者席を設けました。司会者席はステージ上に置き、専門家席は壁側に4席ずつ、計8席配置しました。

この教材では、こどもたちに席を移動してもらう場面が多くあるため、こどもたちが安全かつスムーズに行き来できるようなスペースを確保することが必要です。



## 2. 当日の集合から開始前まで

こどもたちのグループ分けは、席への誘導や出席状況の確認がしやすいよう、あらかじめ行っておきました。

先にチューターが席に着いて、こどもたちを待っているようにし、席に着いたら積極的に声をかけ、また、名札を作ってもらったり、準備された資料に目を通してもらったりしながら、場の雰囲気早く慣れてもらうように心がけました。



## 3. アイスブレイク

法律教室開始後、まず行ったのは、アイスブレイクです。アイスブレイクは、こどもたちの緊張感をほぐすために非常に効果的なものです。このとき行ったのは、自己紹介リレーでした。グループごとに準備されたカラーボールを使い、それを持った人が自分の名前と好きな食べ物を言ったあと、他の仲間に向けてボールを転がし、それを受け取った人が次に自己紹介をするというものです。これを行うだけで、グループの雰囲気が和み、こどもたちどうしでの会話も自然に生まれてきました。確保できる時間に合わせて、あまり難しくない内容のものを取り入れるとよいと思います。

## 4. 紙芝居の上映～専門家の登場

紙芝居を前方の大きなスクリーンに映し出すと、こどもたちは一気に物語の世界に引き込まれていきました。紙芝居の上映は一度だけですが、その絵やナレーションから、内容をしっかりとつかむことができていました。

次の専門家紹介シーンでは、紙芝居に描かれたキャラクターにそっくりな専門家役が実際に次々に登場し、会場内の雰囲気が明るく盛り上がりました。こどもたちのモチベーションも高まったように感じました。



## 5. グループワーク

まずは、グループの中でリーダーを決めます。リーダーは代表して相談申込みをしたり、最後の発表をしたりします。立候補により決まる場合もありますが、なかなか決まらないときは、じゃんけんで決めるとよいでしょう。

相談したい専門家が決まったら、予約申込書を司会者席に提出します。他のグループと希望が重なった場合は、抽選により決定することになります。



この場面で工夫した点は、専門家の予約状況と各グループの消費コイン数を、大きな表に書いて掲示したことです。これにより、第一希望が通らなかったグループが第二希望の専門家を選ぶにあたって検討しやすくなり、また、司会者やスタッフも状況を把握しやすくなりました。

相談先が確定すると、早速グループでの話し合いに入ります。解決策の方向性、具体的な相談内容などについて検討します。グループの全員が意見を出し合えるように、チューターが一人一人の様子をうかがいながら、こどもたちの発言を促すように努めます。

準備が整ったら、いよいよ専門家に相談をします。こどもたちが専門家の席まで移動し、スタートの合図で一斉に相談を始めます。専門家は受けた相談に対して、それぞれのスタンスに沿った回答をしていきます。

相談の時間はたった5分なので、あっという間に終わってしまいます。聞きたいことをうまく聞き出せたグループもあれば、なかなか思うように答えを聞き出せなかったグルー



プもありました。何をどのようにどの順番で聞くのかなど、相談における事前準備がいかに大切かを実感してもらえた場面だといえます。

こどもたちがうまく質問できないでいると、つい専門家のほうからヒントを出したくなってしまいますが、そこは手助けをせず、こどもたちから質問が出てくるのを待つようにします。

この相談は、①聞く②話す③積極性④チームワークの4項目について、各専門家が0～3点で評価します。

次の相談に向けた流れは、1回目と同様です。この頃になると、グループのメンバーどうしがすっかり打ち解けて、チューターがサポートしなくても自発的に活発な意見交換がなされるようになっていました。最後の発表に向けて、より有益なアドバイスを聞き出そうと、相談の内容だけでなく、相談の始め方や質問の順序などについても検討しているグループも見られました。

専門家	必要コイン	第1回目	第2回目
戦士	4		D
長老	3	A	B
ミュージシャン	3		
占い師	1	D	
魔法使い	1		
法専門家	2	F	C
役人	0	C	E
コンサルタント	2	B	A

2回目の相談では、どのグループも1回目の相談から得られた経験や反省点を活かしながら、さまざまな点に注意を向けて相談している様子がうかがえました。特に積極性やチームワークが非常にようになって、充実した相談時間を得られたグループが多かったようです。

## 6. 最終プレゼンテーション

2回の相談を経て導き出した解決策を、グループのリーダーが発表しました。この発表も評価の対象となり、①戦略の明確さ、②発表のわかりやすさの2項目が0～3点で評価されます。指導案では、評価は専門家役が行うことになっていますが、宮城県司法書士会ではこの評価を専門家だけでなく、保護者にも行っていただきました。

発表内容は実にさまざまで、なかにはユーモアにあふれた解決策を披露するグループもあり、会場内が笑いに包まれる場面もありました。

他のグループの発表を聞くことを通して、相談する専門家が異なると知り得る情報や最終的な結論にも差が出るということを、こどもたちに実感してもらえたように思います。

## 7. 評価・講評

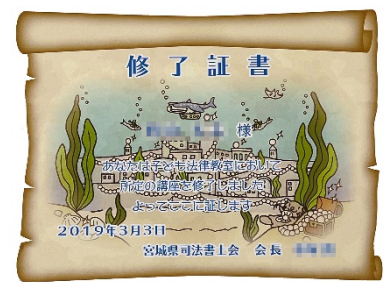
指導案では、高得点のグループを発表した後に講評を行う順序になっています。しかし、宮城県司法書士会では専門家と保護者が行った評価を集計する時間が必要だったため、その順序を入れ替え、各専門家から相談を受けて感じた点などを、こどもたちに

直接言葉で伝える時間を設けました。順位や点数が付くワークはどうしてもその結果だけを捉えがちですが、この時間を通して、そこに至るまでの過程にしっかりと目を向けてもらえたのではないかと思います。

続いて、司会者が全体の流れを振り返りながら、この教材を通して学んでほしかったことを丁寧に話し、今後の日常生活において相談の力を高めてほしいというメッセージを伝えて、講評を締めくくりました。

その後、一番得点の高かったグループを発表しました。そして、各グループで採点結果が記録された評価の書を見ながら、結果を共有してもらいました。こうすることで、より一層子どもたちにこの日の体験を印象づけられたように思います。

最後に、子どもたち一人一人に修了証書と記念品を専門家から手渡し、「子ども法律教室」は終了しました。



### (3) おわりに

以上、宮城県司法書士会の「子ども法律教室」の実践例をご紹介いたしました。

「相談のちから」は、この教材が目指す相談のスキルの獲得はもちろんのこと、子どもたちがさまざまな気づきを得たり、柔軟な発想力を鍛えたりできる、素晴らしい教材だと思います。全国各地でこの教材を使用した子ども法律教室が開催され、それが多くの子どもたちの学びの機会となることを願っています。



---

#### <注>

- \*1 日本司法書士会連合法教育推進委員会制作、久保山力也監修『紙芝居で学ぶ法教育教材「相談のちから」』（日本司法書士会連合法、2018年）。